

17春闘勝利！ 京都総決起集会で JAL原告団がアピール

3月18日、「ユニオンネットワーク・京都」主催の「17春闘勝利！ 京都総決起集会」が東山いきいき市民活動センターで開かれ、JAL原告団からもアピールをおこないました。最初に「ユニオンネットワーク・京都」の野村貴さんが春闘情勢について報告しました。野村さんは「最低賃金を第二の賃金闘争とし、非正規労働者や低賃金労働者の組織化の武器にしよう。」などと述べたあと、最後に、17春闘の中で強調すべきこととして「①一人職場でも可能な限り要求を提出し、会社と交渉しよう。要求提出、交渉、仲間づくりは労働組合の基礎的闘いである。②非正規労働者、中小民間の労働者は自ら労働組合に団結して闘わないかぎり生活を守れない。③労働運動の中心の闘いは、戦争と貧困と闘うことをはっきりさせること。④全世界で進行する戦争と貧困の拡大に対し、それを阻止できるのは国際的に連帯した労働者の団結、闘いだけであること。」と述べました。次に「若狭の原発を考える会」「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」「JAL原告団」から連帯発言がありました。JAL原告団からは「解雇撤回裁判では残念ながら負けた。司法というのは平等だと思っていたが、このように平等でないのかと驚いた。私たちの組合も今、会社と交渉しているが、会社からの回答がない。JALが2020年までの中期計画が立てられないのでベースアップはないと言っているが、JALは儲かっていてそんなことはないはずだ。それとJALの労働者は稲盛氏の経営指針「利益なくして安全なし」で大変疲弊している。JALの仲間が職場に帰ってきてほしいと言っている。この争議を解決することが、JALがお客様に真に安全・安心を提供する会社になるということだ。そう思って闘っている。今後ともご支援をお願いしたい。」との発言がありました。



ながら負けた。司法というのは平等だと思っていたが、このように平等でないのかと驚いた。私たちの組合も今、会社と交渉しているが、会社からの回答がない。JALが2020年までの中期計画が立てられないのでベースアップはないと言っているが、JALは儲かっていてそんなことはないはずだ。それとJALの労働者は稲盛氏の経営指針「利益なくして安全なし」で大変疲弊している。JALの仲間が職場に帰ってきてほしいと言っている。この争議を解決

することが、JALがお客様に真に安全・安心を提供する会社になるということだ。そう思って闘っている。今後ともご支援をお願いしたい。」との発言がありました。

集会後、参加者は「春闘勝利、戦争反対、安倍はやめろ」とシュプレヒコールをおこないながら、円山公園までデモ行進をおこないました。途中河原町通りではJAL原告団がマイクを持ち、繁華街を歩いている多くの市民にJAL不当解雇撤回をアピールしました。